



アイゼナク  
山林学校  
制

842



414  
A 4240  
1

アイゼナク山林学校ノ制

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈



第一章 本校設置ノ主意

林学校ハ本ト一千八百六年ニ方リ嘗テ  
上等管林評議官コニフ氏創メテル<sub>ラ</sub>ニ於テ  
之ヲ建設セシカ爾後幾ント二十四年ヲ經一千  
八百三十年ニ至リテ遂ニアイゼナクノ一官校  
ト為レリ即チ本校ノ主眼トスル所ハ專ラ有能  
博識ナル管林官ヲ造<sub>ラ</sub>ンカ為メナリ

第二章 入学ノ定要

第一節 入学志願ノ者ハ先ツ豫メ普通ノ学科  
ヲ遂ケ且ツ別ニ実地ノ業ヲ研究シタル者ニ非  
サレハ之ヲ許サズ

其二 往々政府ノ管林職ヲ奉センコトヲ欲シテ  
入学ヲ志願スル者ハ之ヲ試験スルニ先ツ世ノ  
中学校ノ第一級(即チ第六進級)ニ入ル可キ学力  
ノ有無ヲ以テ之ヲ決定ス

其三 志願者ノ実地ノ業ニ就テハ豫メ山林ノ  
地方ニ於テ博識ナル管林官ニ從々全ノ一年間  
之ヲ研究シタル者ヲ要トス

第二節 外國人ニシテ入学ヲ志願スル者ニ准  
單ニ普通ノ豫科ヲ學ビ得タル証書アルヲ以テ  
是レリトス

第三節 往々管林官ノ職ヲ志スニ非スニテ單  
ニ教授ヲ受ケントスル者ハ何等ノ教科ヲ問ハ  
ス自ラ欲スル所ニ從テ之ヲ選フヲ得可シ

### 第三章 学科ノ順序

前章ニ所謂本校ノ主眼トスル所ハ生徒ヲシテ  
博ク山林ノ學ヲ修セシムルニ在ルカ故ニ專ラ  
本學ノ基本ト爲ル可キ諸學ヲ以テ其副科ヲ設

ケ以テ本科ノ輔翼ト為ス  
ト左ノ如シ

第一款 副科

第一節 数学

(博士 カッセルマン)

〔イ〕算術 幾何学

三角法 多角法

量體術 ステレオメトリ

但シ積分法微分法圓形三角法圓錐狀截分法ハ姑ク之ヲ除ク

第二節 博物学

(博士 センフト ホセウ)

〔イ〕化学

但シ礦物学地質学氣帯学ヲ研究スルニ必要ナル許元素ノ分離混合ノ理ヲ以テス

ル無機化学ニ植物ノ成生シ百草ノ萌芽シ土地ノ固形ヲ成ス所以ノ諸元素ヲ首ノトシ凡焼炭職ノ如キ許多山林学上ノ作為ニ必要ナル諸元素ヲ精細ニ講究スル有機化学ヲ主トス

〔ロ〕物理学

但シ視学色音学ノ如ク山林学上ニ關係ナキ者ハ之ヲ除ク

〔ハ〕氣象学 氣帯学

〔三〕礦物学

但シ岩石及ヒ土塊ノ形状ニテ存スル礦物ニ限ル

〔ホ〕地原論（地質学ノ一流）

〔ヘ〕地質学

〔ト〕植物體成及ヒ植物生理

〔チ〕植物本論（即チ植物ノ綱目）

但シ特ニ山林中ノ草木ニ関ス

〔リ〕動物学

但シ特ニ山林中ニ群居スル禽獸羽蟲ノ

類ニ主関スル博物論ニ限ル

第三節 経済学及ヒ法律学

〔イ〕経済学ノ大意

〔ロ〕民法及ヒ刑法

但シツリンゼア諸州ノ山林律ヲ生ニス

第二款 山林学本科（内閣上等管林評

議官ドクトルグレビー）

〔イ〕山林学ノ初歩

〔ロ〕山林ノ歴史

〔ハ〕樹藝及ヒ管理方（トノシマツカ）

〔三〕山林ノ加護方

〔ホ〕山林調治ノ法

但シ其巨項ヲ掲クル左ノ如シ

〔一〕実地豫業

山林ヲ実測スル事 図ヲ制スルヲ 山林  
ヲ各區ニ分ツテ 山林ノ税及ク其増成シ  
タル部分ノ税ヲ無程スルヲ 同之ヲ示明  
スルヲ

〔三〕実地作業ノ基本

材木ノ類ヲ選クニツ之ヲ管理スルヲ  
山林伐木ノ年限ヲ定ムルヲ

管理方ヲ異ニシタル山林ヲ分別スルヲ

〔三〕実地作業ノ雛形ヲ造ルヲ

〔四〕産物ヲ估價シ且ツ年々之ヲ平均ナラ

シムルヲ

〔五〕実地作業ノ制式ヲ再訂シ且ツ之ヲ督

理スルヲ

〔二〕山林地估價方

チアミ

〔ト〕政治学経済学上ヨリ論シタル山林学

〔チ〕管林職ノ制及ク山林事務ノ管理方

第三款 学科ノ配附及ク学科ノ大意

第一節 抑本校科業ハ耶獲更生ノ祭日三月一日ヨリ四月二十五日マテノ間ニテ以テ始期ト在テ年々其例日ヲ異ニスヲ以テ始期ト研究二年ニシテ之ヲ卒ル毎歳夏候ハ四月十五日以後第一ノ月曜日ヲ以テ校ヲ閉キ九月上弦ニシテ之ヲ閉チ冬候ハ十月十五日以後第一ノ月曜日ヲ以テ之ヲ始メ三月中葉頃ニシテ之ヲ終フ

第二節 本校博士数名ヲ置ク即チ左ノ如シ

〔イ〕校長一名即チ山林学ノ者部曲ヲ教授ス

〔ロ〕化学ヲ教授シ且ツ物理学、氣象学ヲ以テ土

地ノ分子<sup>学</sup>教フル教官一名

〔ハ〕礦物学、地質学、植物学、本論植物體成、植物生理、動物学ヲ教フル教官一名

〔三〕数学教官一名

〔ホ〕経済学、法律学ノ教官一名

第三節 学科研究ノ道ヲ分ツテ左ノ如シ

第一類 教授

第二類 試験

第三類 定地研業

第四類 遊行

第一類 = 附論に教授ハ必ス之ヲ午前ニ限リ  
夏候ハ七時ヨリ九時、十時ヨリ十二時迄、  
トシ冬候ハ八時ヨリ十二時迄ヲ限トス  
右一週二十四時間ノ中九時或ハ十時間ハ全  
ク<sup>山</sup>林学ニ従事シ七時或ハ八時間ハ博物理  
学ニ従事シ五時或ハ六時間ハ数学ニ従事シ  
二時間ハ法律学ニ従事スルナリ而シテ此ニ  
掲載スル学科ノ教フルノ順序左ノ如シ

第一 数学

第一席 算術

第二席 幾何学、三角法  
第三席 多角法、測量術  
第四席 山林應用数学(山林測量ノ法、林木  
測量ノ学、山林估價ノ法等ナ)

第二 博物理学

第一席 化学、礦物学、植物学ノ初歩  
第二席 上進ノ化学、物理学、氣象学  
第三席 植物学、礦物学ノ續及々土地ノ善  
悪論  
第四席 植物體成、植物生理、動物学



第三 経済学及法律学

第一席 経済学

第二席 同 續

第三席 民法

第四席 刑法

第五 山林学

第一席 山林ノ歴史 樹藝方 山林 官

理方及之活價方ニ属スル实地豫

業

第二席 山林ノ持扱及之加護方 一國經

濟上ヨリ論シタル山林学

第三席 樹藝方及之山林管理方ノ復蘇

第四席 山林(材木等)ノ用法 活價方 官

林職ノ制及之山林事務ノ管理方

右諸学科ヲ教授スルニ教官ハ可力及先哲

ノ憑頼ス可キ著書ニ就テ之ヲ口授シ若又

斯ノ如キノ書ナケレハ書牘ノ法ヲ用ケテ

之ヲ口授ス可シ

又(第二類)ニ附論ス抑試験ハ大ニ進学ノ道

輔翼スルニ既ニ判然ニシテ晁モ主要トスル

学科、趣味ニ於テハ毎週殊ニ一時間ヲ省テ  
専ラ試験ノ時ニ供ス加之各候ノ末ニ當テハ  
更ニ数時ヲ以テ試験ニ充ツルナリ  
第三類及ヒ第四類ニ附論ス実地研業及ヒ遊  
行ハ毎日午後二時ヨリ之ヲ行ヒ須臾モ怠ル  
ノ日アルナシ

其二 夏候ノ間ハ毎週四タヲ以テ測術<sup>測量</sup>実  
験ニ供ス(即チ初メハ甚タ簡單ナル測量方ヲ  
演ス)此日若シ天氣善カラサル時ハ講堂ニ於  
テ右測量ノ結果ヲ修成セシム(即チ図ヲ畫シ

坪数ヲ計定スル等ヲ去フ)  
又毎週一タヲ以テ山林ノ遊行ニ供ス蓋シ遊  
行ヲ為スモ固ヨリ爵散遊樂ノ為メニスルニ  
非スシテ心ス特種ノ目的ニ出サルハナシ即  
チ概子<sup>遊</sup>行ノ間ハ豫テ理上ニテ習フ所ノ管  
理方例ヘハ皆樹木ヲ透カシ植附ヲ為シ種藝  
ヲ為シ山林地方ヲ估價シ又其年々増成シタ  
ル部分ヲ估價シ山林ヲ實測シ又其年々増成  
シタル部分ヲ實測シ山林徑路ヲ設クル等ノ  
如キ皆ヲ管理方ヲ去フヲ實地ニ研究スルヲ

勉ムルナリ斯ノ如クニシテ近隣ノ山林地方  
中学科研究ノ為メ特ニ必要ナル者ハ則テ本  
校ニ附属シテ校長ノ督轄ニ歸ス此ノ定日ノ  
遊行ニ加フルニ又時トシテハ更ニ数日ヲ消  
シテ近隣ノ山林ニ遊行スルヲアリ蓋シ其目  
的一ハ各地方局所ニ異ナルノ諸件ヲ詳ニシ  
一ハ本校ニ附属セル山林地方ニ比類ナク管  
林ノ方(例ヘハ定寸ヨリ低キ穉樹ノ森(即チ中  
木ノ林)ヲ高木ノ林(即チ大木ノ林)ニ変シ又丘  
陵ノ上ニ樹ツ松柏林管理方等ヲ去フ)ヲ明ニ

スルニ在リ又毎年夏候ニ当リテハアイゼナ  
リノ山林中適宜ノ部分ニ行フ可キ為メ特種  
作業ノ雛形ヲ設ケ之ニ該山林ニ属スル実地  
豫業但シ甚タ并多ノ時日ヲ費スカ如キ測量  
ノ方ハ之ヲ除クヲ記入シ就中此作業ト相共  
ニ山林ノ沽價方及ク管理方ヲ<sup>漢</sup>明<sup>習</sup>ス即チ此  
等ノ作業ヲ研究スルノ間ハ暫ラク教授ヲ休  
業ス

又夏候ノ間別ニ毎週一タヲ以テ博物物理学殊  
ニ植物学地質学ヲ去フニ属スル諸事ヲ実験

スルノ遊行ニ供ス即チアイゼナク近隣ニハ  
此実験ヲ用ヒテ大ニ学問上ノ益ヲ得ルノ地  
多シ又時トシテハ四日間ヲ費シ以テツリン  
テア山林ノ最モ切要ナル部分ニ遊行スル  
アリ

其三 冬候ニ於テ毎週ニタハ之ヲ数学ノ演  
習ニ供シニタハ制図術ノ演習ニ供ス蓋シ冬  
候ノ間山林ノ遊行ハ殊ニ伐木シタル地方ニ  
之ヲ限リテ此遊行ノ為メニ配附シタル  
日ハ輒チ化学、物理学ノ試験并ニ植物、礦物等ノ

分類方ノ試験ニ供スルニ制ナリ

